

第3回備前振興計画審議会 議事概要

日 時	令和2年11月25日（水）15：00～16：40
場 所	備前市役所 5階会議室
出席者 （敬称略）	審議会委員：15名 オブザーバー：4名 大井祐史、中本孝一郎、江端恭臣、橋本成仁、中村有美子、小野田誠、山形明、三木隆司、中藤歳浩、浅野 ^パ トリツィア、川平章、赤迫康代、谷原純子、出井鉄二、峰野裕二郎 オブザーバー：4名 石原大夢、小幡葉月、講崎香月、松川純（岡山県立備前緑陽高校）

1. 開会

2. 議題

【骨子案たたき台について】

会長：

第3回審議会では、政策目標と政策の現状と課題の部分の文章内容に問題がないか、また、全体を通して答申に入れるべき意見がないかどうかを確認していく。

事務局：

政策1 目標と現状と課題を読み上げ

委員：

認定子ども園、保育園や小学校のところに、中学校も入れたほうがよいのでは。

事務局：

ここでは就学前教育での課題という点で小学校への接続に力を入れていくということを記載している。委員ご指摘の小中の連携については、具体的な施策展開の中で記載していきたい。

委員：

子どもの成長を教育と捉えている部分と、まちづくりという大きな文化としてとらえている部分があり、教育と文化の内容の接続が悪いように感じられる。子どもたちの主体的な成長の保障などが表現できて、大人になって、いろんな文化を作ったり、教育活動に携わったりするってということが、この文章から読み取れるような表現になるとよいと感じた。

冒頭の「市民自らが問題意識を持ち、学びを深めて、大人が成長していく」ということがしっかり書かれてるのは素晴らしい。子供と関わること、子供の教育を通して大人も成長できるという表現が入るとよい。

会長：

委員の意見としては大きく二つ。教育のところと文化のところの接続がスムーズじゃないというのが1点。もう一つは子育てが生涯学習の一環であるということ。これを目標にするのはなかなか難しく、これを目標にするのはすごい話のような気もするが、事務局で反映のさせ方を検討してもらえば。

委員：

政策の現状と課題の一段落目は非常に大きな話をしており、そのあとは、就学前であり学校教育であり、歴史文化であり、詳細になる。一段落目だけは、市民一人一人がという投げかけで、誰を主体に書いてるのがわかりにくい。この一段落目が、重要な課題である「市民の主体的な学びの推進」につながるので、どう目標に落としていくかが非常に大事。一般的に読めば、市民一人一人の生涯学習の機会が充実することによって、この部分は達成しようとしているというふうに読めるが、それをどう目標に落として評価していくかとなると、「大会に200人の参加者があった、これをもって市民が主体的に学ぼうとしている」という評価では判断が出来ないと考える。抽象的な表現であるがゆえに、ここから先どのようにしていこうとしているのか非常に期待している。

会長：

抽象的な部分が大きく、具体性がというところを指摘されているが、この文章であまり具体的に書くと今度はそれしかできなくなるってところがネックになる。事務局の方で少し考えていただくとする。

事務局：

政策2 目標と現状と課題を読み上げ

委員：

前回、地域を誇りに思う人材を作った方がいいという話をした。今回、教育の部分で位置づけられているが、地域コミュニティの中で人づくりを考えることも非常に大事だと思う。教育委員会の仕事、市長部局の仕事、と縦割りで切りすぎるのは良くない。

また、外部人材の確保という課題について、外部に期待するだけでなく、中からどう盛り上げていくのかという部分も重要な課題として欲しい。

外国人との話で、多文化共生社会を構築していくということを、趣旨としては書いてあるが、「多文化共生社会」というキーワードもいるのではないかな。

会長：

担当部局が上にあると、担当部以外は関係ないというように読めてしまう。総合計画であれば、市全体の話なので、書き方を考えた方がよいのでは。

事務局：

多文化共生社会、これから、外国人との共生社会を考えていく上で、外せないキーワードである。当然そこを踏まえて考えるが、現在の取り組みとして、姉妹都市と交流というものがあり、多文化共生と、それから姉妹都市との関係の両方を組み合わせられるキーワードとして、異文化理解の促進というような、整理の仕方をしている。

委員：

交流・理解の段階ではなく、一緒に住んで一緒にこのまちをつくっていくしかないという流れが文章の中で表現されているか。交流や理解を深めることが最終的な目標ではなく、外国人の方も一緒に、地域を支えていくという方向を示すべきではないか。

会長：

文化理解の促進は最初の段階であって、もうその次のステップに入っているということか。

委員：

双方が暮らしやすいまちづくりを目指すということであれば、「理解を促進する」というのでよいかというところを議論してもらいたい。

会長：

補足として、共生していくしかないというネガティブな表現ではなく、むしろポジティブなものとしてとらえる必要があるかと思う。

委員：

色々な外国人にどう伝えていくか、その方法を考えなければならない。また、仕事に来ている外国人がもともと、一緒に暮らしていくというところに興味があるかどうかはまたひとつ問題だと思う。協力であるとか、そういった言葉を使えば伝えやすいかと考える。

委員：

関係人口について、魅力を感じてくれる人、という言い換え・キーワードを混ぜると関係人口という言葉の本質がわかりやすくなるのではと思う。

委員：

新しいことにチャレンジしていかなければ、何も変わらない。その気概が文章から伝わってこない。地域の活性化を進めていく、とあるがその主体は誰か。例えば、活性化を進めていく人たちを応援できるような土台を作っていく、その熱意や意識を市民とどう共有するかというところを考えて欲しい。

会長：

もう少し踏み込んだかたちで書いてもらいたい。また、現状と課題のバランスの中で、もう少し前半部分に重きを置いてもよいのではないか。

事務局：

政策3 目標と現状と課題を読み上げ

委員：

最初の政策目標の中の、福祉医療介護サービスが充実し、とあるが、これに保健を入れていただきたい。健康づくりは保健が担うところかと思う。

2段落目の、子供からお年寄り、患者、医療従事者まであらゆる人が安心して・・・とあるが「患者と医療従事者」の並びは違和感がある。

市の重要な課題で、地域ケアシステムの構築深化というのはとても素晴らしいが、次の「断らない相談支援体制の確立」というのは最低限のことなので目指す方向とは違うと思う。例えば、住民に寄り添う支援体制の確立とか、住民とのパートナーシップとか、そういった方がよいのではないか。

5年10年先を見据えて、コロナを含めた、感染症対策的な健康危機管理について言及していただきたい。

地域共生社会というのはすごく素晴らしいキーワードが出ているなと感心した。

事務局：

的確なご意見ありがとうございました。参考にさせていただきます。

事務局：

政策4 目標と現状と課題を読み上げ

委員：

産業経済の中で備前市は製造業によって支えられていると以前言及があった。現状と課題の中に、製造業という単語が全くないので、どこかで触れたほうがよいのでは。

事務局：

製造業については「商工業」の中に統括している。

会長：

段落の一番上の部分。ただ、それ以降では、農業・林業など特出しででているところに一言もないということが気になっているところかと思うので、少し配慮してもらえればと思う。

委員：

企業の造成団地について、民間資本がこなかった場合は行政としてはそのままにしておくことか。今、一番備前市昼夜間の人口比は多大きな課題。住宅政策がセットでなければ将来はないのではと思うので、そのあたりはもう少し突っ込んだ内容の文章が欲しい。

委員：

民間資本による企業団地造成と書かれているが、現実問題としてありうるのか。

それから、これまで備前市の基幹産業は製造業だったが、今後は起業してもらうほうへシフトしては。さらには、観光資源を活用して、人を呼び込み雇用につなげていくことについても考えた方がよい。

事務局：

民間資本による企業団地造成についてだが、備前市では、現在企業用の団地を持っていない。団地となると大変広い土地が必要。民間事業者が大規模な開発をする場合は市としても協力したいという意味で記載している。

会長：

すべての産業を書き始めると大変な分量になるので書きにくいのだと思う。最初の段落を膨らませるか、文章を魅力的にしてはどうか

委員：

備前焼について、観光としてのイメージで記載されているが、もっと産業としてとらえてもいいのでは。

委員：

農業、水産業に関して、「担い手不足」「耕作放棄地の増加」などネガティブな表現が多い。

備前焼だけでなく、吉永の自然や日生の海も魅力的。思い切ってわくわくするような文章に変えていってはどうか。

会長：

同じことを表現しても表現次第でイメージは変わってくる。ちょっとポジティブな表現でお願いしたい。

委員：

都市計画について、「コンパクトな市街地整備が必要」となっているが、ネガティブな表現にはなるが「人口減少が進む中で」という前提の説明表現が必要ではないか。

会長：

全体の人口のが減ると、密度が下がるのはまた別物。コンパクトな市街地整備というのは、密度を高めて魅力的なまちを創っていくことを考えてもらえればと思う。

事務局：

政策5 目標と現状と課題を読み上げ

委員：

自助、共助、公助の定着とあるが、「互助」についても入れていただきたい。隣近所の助け合いなどの部分については互助になるかと思う。

会長：

ちなみにこの共助と互助の違いはどのように考えるのか。

委員：

共助は、社会保険のように、介護保険料や医療保険のように、先にお金を支払い後で必要な方に払われる制度化された助け合い。公助は公的なサービスプラス生活保護のような、もともとかけていないけど、受けられるサービス。互助は保険ではなく、ボランティアとかNPOの直接的な助け合いとなる。

委員：

自助の視点、自分の身は自分で守るという部分がどこかに欲しいと思う。

また、地区で防災を支えるという部分ももう少し書き込んだ方がよいのではないか。

委員：

自主防災組織というキーワードを入れて欲しい。

事務局：

基本計画部分で具体的に書き込みをしたい。

会長：

政策目標のところに犯罪事故について書いてあるが、現状と課題で対する言及がほとんどない。

また、行政のやるべきことばかり書かれていて、市民の協力が当然必要だがそこが書き込めていないので、修正していただければ。

事務局：

政策6 目標と現状と課題を読み上げ

会長：

そのほか何かありますか。

委員：

重要な課題の項目数が政策ごとに大きく違う。数が重要なわけではないがバランスが悪いように感じられる。

生活環境の部分に、環境だけではなく景観の問題も入れておいてもよいのでは。

会長：

生活環境のところ、歩く空間であったり、住宅環境であったり、公園であったり、そういうような色々な意見があるのではないかと思う。もう少し広がりのある書き方になると良い。

委員：

地区の方のお話を聞くと、明るい未来について出てくることがない。そういった地区ばかりではないかもしれないが、間違いなくそのような地区もあるということを忘れないで欲しい。コンパクトシティ化も良いが、山間部を置き去りにしないようにしていただきたい

住民がもう少し頑張ってみようかなという全体の目標になるといいと考える。

会長：

未来に希望を持つためにこのような計画を作るという前提で議論してきた。何度か出たが、ネガティブではなくポジティブにどう表現していくかを考えていただきたい。